

ご案内

国際交流基金巡回展、世界各地で徐々に再開へ！

～コロナ時代の海外展～

国際交流基金は、日本の美術や文化を海外へ紹介する活動の一環として「国際交流基金巡回展」を実施しています。所蔵品により構成するもので、陶芸・工芸・日本人形などの日本の伝統美を紹介する展覧会から、現代美術・写真・建築・デザインなど現代の日本を伝える展覧会まで多岐にわたり、約15の展覧会が常時海外を巡回しています。2019年度は、17の巡回展が世界46か国・地域の75都市で開催され、合計約31万人の入場者を記録しました。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、世界各地で国際間の物流・人の動きが次々と制限され、巡回展事業にも2月上旬からその影響が出始め、多くの国で開催がいったん中止されました。しかし現在では、ウイズコロナ時代の新しい社会や生活様式が模索されるなか、国・地域によっては感染状況を考慮し、適切な感染症対策を講じつつ、徐々に巡回展が再開されています。

ハノイから再開 – 2020年の基金巡回展

5月を過ぎたころから状況が好転し始めた国が少しずつ出てきたことを受け、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターから6月にはハノイで展覧会が実現できそうだとの一報を受けました。



ベトナム国立美術博物館での「構築景観」展

ベトナム全土の社会的隔離措置（4月1日から20日間以上）を経て、社会が少しずつ元の日常に戻り始めたころ、6月19日に巡回展「構築景観」がベトナム国立美術博物館で開幕。集客は厳しい感染対策や入館制限もあって苦戦しましたが、来場者は口々に「日本の建築について初めて知ることができた」「建築を通して、日本ならではの精神、価値観を知ることができた」と評価していました。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

中国の事例 –リアルな展示に対する欲求–

中国の三峡博物館（重慶）では7月19日から、「新現代日本のデザイン100選」を開催。現地の担当者は、中国ではこのときまさに、「長く続いた厳しい自宅隔離政策のなか、オンライン疲れそしてリアルな展示を外で見たい、という気持ちが爆発した」と語っています。「上海や北京と違って、まだ日本の展示会が珍しい地方都市で、すべて日本の出品作品というのが好意的に受け取られた」とのこと。重慶の後に巡回した瀋陽では、夏休みの時期と重なったこともあり、それぞれ1か月強の会期ながら来場者数は2会場合計で3万5,000人と事前の予想を超えました。「文化芸術事業の大半がオンラインになっているなか、リアルな展示を行うことができたことの意味は大きい」と担当者は語ります。来場した人々も、「日本のデザインへの関心が高まった」「日本への好感度が上がった」と口々に話していました。



瀋陽での「新現代日本のデザイン100選」展の様子

写真提供：在瀋陽日本国総領事館

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



ご案内

【再開した巡回展一覧（一部）】

展覧会名	内容	監修等	国	都市	会場	会期 (2020年)
構築環境：もう一つの日本ガイド	日本各地の建築、土木、ランドスケープなど80点を取り上げ、写真とテキストと映像で紹介	倉方俊輔（大阪市立大学） 八馬智（千葉工業大学） 保坂健二郎（東京国立近代美術館）	ベトナム	ハノイ	ベトナム国立美術博物館	6/19-7/5
			フィリピン	マニラ	メトロポリタン美術館	9/1-11/14
現代・木彫・根付	現代根付師が制作した木彫の根付を中心に展示	小松大秀（永青文庫）	ニュージーランド	オークランド	テ・ウル ワイタケレギャラリー	6/27-8/2
			韓国	済州	在済州総領事館	10/6-10/22
新現代日本のデザイン	プロダクトデザイン（家具、家電、文具、食器、医療品、乗り物など）を中心に、紹介	柏木博（デザイン評論家） 深川雅文（キュレーター） 萩原修（デザインディレクター） 川上典李子（ジャーナリスト）	中国	重慶	三峡博物館	7/19-8/14
				瀋陽	奉天工場	8/24-9/13
武道の精神	武具と武術の歴史及び現代文化としての武道をテーマに構成。武具類を多く展示。		マレーシア	クアラトレンガヌ	トレンガヌ州立博物館	7/20-8/22
			タイ	チョンブリー	プラパー大学	9/24-10/25
日本人形	日本人形とその文化を、歴史的な文脈も踏まえ幅広く紹介。	林直輝（日本人形研究所） 三田覚之（東京国立博物館）	クロアチア	ブコバル	ブコバル市立博物館	8/27-9/27
				プーラ	プーラ考古学博物館	10/8-10/31
東京ビフォー/アフター	1930年代の東京を撮影した作品と2010年代以降の作品を対比。二つの時代を通じた東京の姿を展示。	飯沢耕太郎（写真評論家）	米国	ルイビル	ルイビル大学	10/2-11/7
東北・風土・ひと・暮らし	写真作品を通して、東北の風土、人、暮らしを浮かび上がらせようとするもの。東北にゆかりのある、しかし世代も表現も違う10人の写真家による作品で構成。	飯沢耕太郎（写真評論家）	ラトビア	ユールマラ	アート・ステーション・ドゥブルティ	10/2-11/2

事業名：国際交流基金巡回展

会場：全世界

会期：年間を通して実施

主催：国際交流基金、外務省、現地受入れ機関

公式ウェブサイト：<https://www.jpf.go.jp/j/project/culture/exhibit/traveling/index.html>

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp